Cloud
LANSCOPE
Endpoint Manager

Apple Account・Googleアカウントの設定不要！

効率的なアプリ管理の方法とは？

chapter

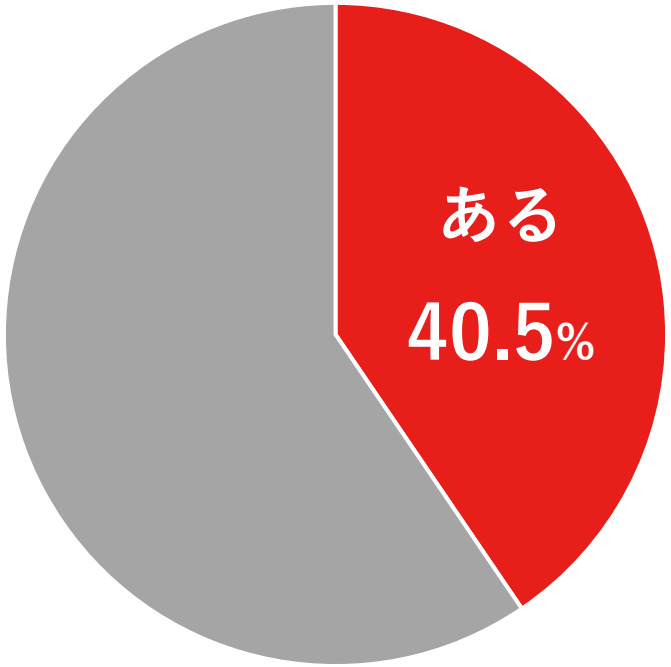
01. 効率的なアプリ管理 概要

© MOTEX Inc.

アカウントの設定や管理が複雑な課題に

ストアアプリのインストールには、iOSはApple Account、Androidの場合はGoogle アカウントをデバイス毎に設定する必要があります。従業員に設定を任せた場合、私物スマホのアカウントを設定されてしまい業務外利用などの課題が生じます。しかし、管理者がアカウントの初期設定や運用管理まで行うとなると、デバイス管理にかかる工数が膨大になり、デバイス管理以外の大切な業務ができなくなる課題が発生します。

会社支給のスマホに業務と関係の無いアプリを
インストールしたことがある人の割合※



Apple Business ManagerでApple Accountをまとめて
作成できるが、**アプリのインストールには利用できない**

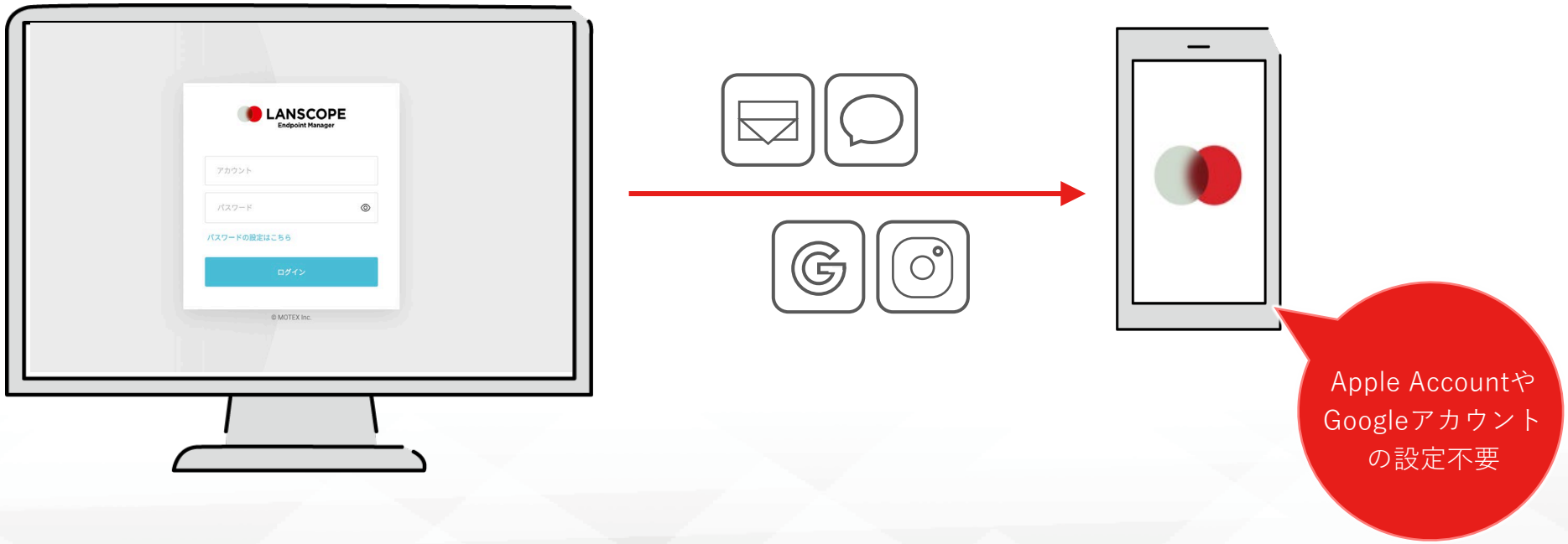
※「30代男女のビジネスパーソン600人に聞いた！業務用スマートデバイスの利用実態調査」エムオーテックス株式会社

© MOTEX Inc.

LANSCOPE エンドポイントマネージャー クラウド版を利用すれば・・

管理者が許可したアプリのみをエンドポイントマネージャーから配信

インストール時にApple AccountやGoogleアカウントは不要

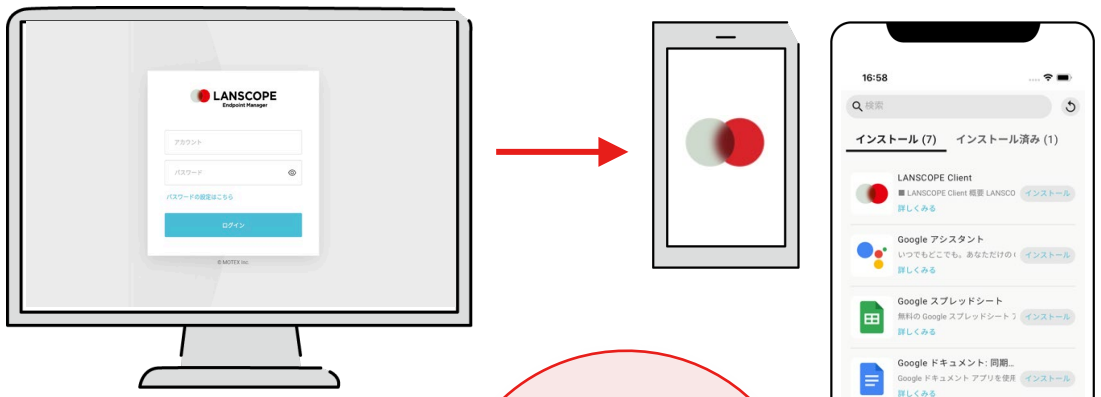


© MOTEX Inc.

iOSはアプリ一括配信（旧VPP）、AndroidはAndroid Enterpriseで実現

アプリ一括配信（旧VPP）

VPPとは、Apple社が提供する「**Apple Business Manager**」の一つで、管理者がアプリをまとめて入手（購入）し、MDMからアプリを配信できるプログラムです。App Storeを禁止している（監視モード必須）場合でも、アプリの配信・インストールまで可能です。



Android Enterprise

Android Enterpriseとは、アプリの配信やデバイスの利用制御などを実現できる Google社が提供するプログラムです。管理者が許可したアプリのみ Play ストアに表示できます。

© MOTEX Inc.

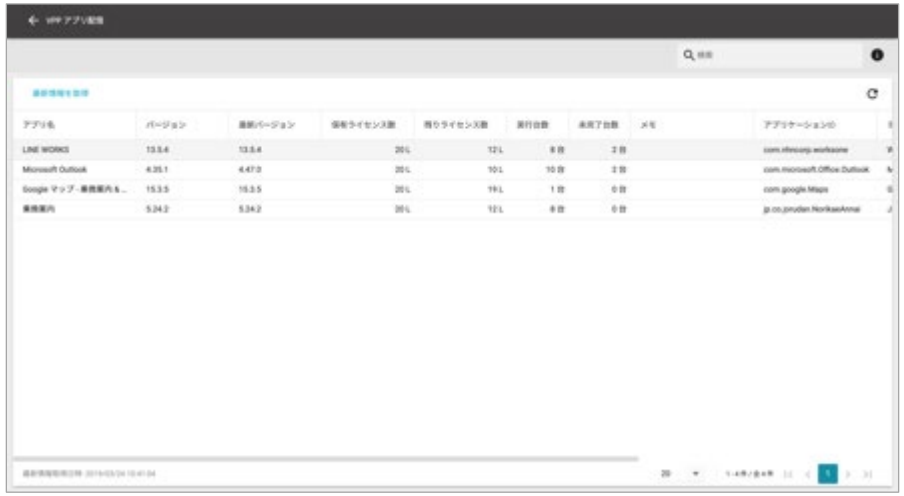
chapter

02. 効率的なアプリ管理の方法 iOS編

© MOTEX Inc.

Apple Accountの設定・サインイン有無に依存せず、アプリ配信・インストールが可能

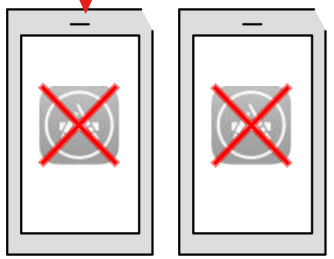
① ABMでアプリを入手、
ライセンスが反映



解 説 デバイス側での操作について

インストール要求のダイアログ表示後に許可すると、インストールが完了。Apple Accountのパスワード入力無しでインストールが可能。
※デバイスを監視モードに設定するとダイアログは表示されません。

App Storeを禁止していても
配信可能！※



② VPPアプリを
デバイスに配信

③ インストール　※ デバイスを監視モードに設定する必要があります。

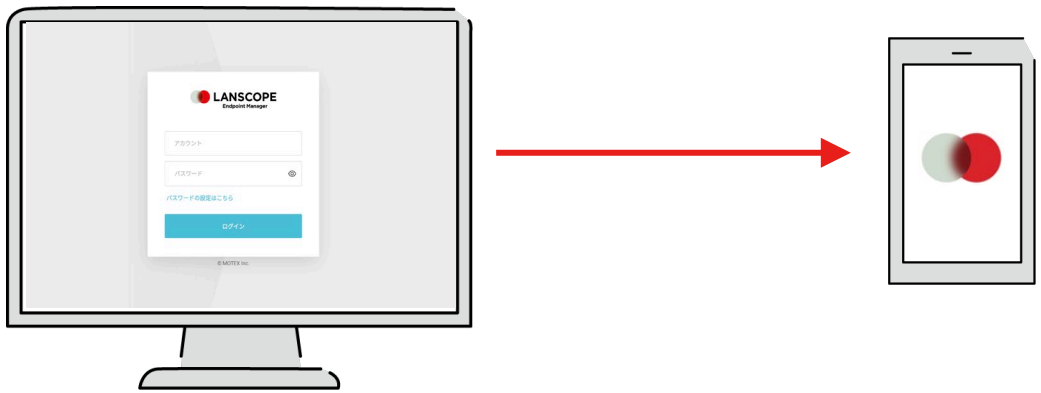
© MOTEX Inc.

アプリ配信の方法の違い

業務に必須のアプリは管理者がPushで強制インストール、任意のアプリは利用者が必要に応じて、
アプリカタログからインストールするなど、運用に合わせて使い分けが可能です。

管理者のタイミングでインストール（Push 配信）

管理者のタイミングでアプリを配信。アプリのアップデートは、管理者が行う必要があります。



アプリの自動配信設定

業務に必要なアプリは、デバイスがエンドポイントマネージャーの管理下に入ったタイミング（MDM構成プロファイルインストールのタイミング）で、自動配信が可能です。管理者が都度、アプリを配信する必要はありません。

利用者のタイミングでインストール（アプリカタログ）

利用者が自身のタイミングで、アプリカタログよりアプリのインストール・アップデートを実施するため、管理者の負担軽減にもなります。

© MOTEX Inc.

参考：配信できるアプリの種類

「アプリの一括配信」（旧VPP）はApple Business Manager（ABM）の機能の一つで、Apple 社が提供する法人向けのアプリの一括購入（入手）とMDMを通じてアプリを一括配信できるプログラムです。App Storeアプリの配信機能は、インストールをデバイスに促すのみに留まり、デバイスでApple Accountのサインインとパスワードの入力が必要でした。VPPは、法人向けに用意されるApple Business Manager上で、アプリを一括入手し、その入手履歴をエンドポイントマネージャークラウド版と連携し、アプリを配信します。VPP を利用すれば、Apple Accountのサインインやパスワード入力は必要ありません。

アプリ配信の種類/利用シーン比較	利用シーン	管理コンソールから配信実行後のデバイス側の動作	
App Storeアプリ配信 （基本機能）	● デバイスにApple Accountを設定し、利用者にパスワードを教えている。 ● アップデートは利用者が App Store から行う。	① アプリのインストールを促すダイアログが表示されるので［インストール］をタップする ② Apple Accountのパスワードを入力する ③ インストールが実行される	
アプリの一括配信（旧VPP） **デバイスベース方式配信** **（オプション機能）**	● **デバイスにApple Accountを設定していない**、もしくは設定しているが利用者にパスワードを教えていない。 ● App Store を禁止した状態でアプリを配信したい。 ● アップデートは管理者がエンドポイントマネージャーから行う。	監視モード 適用	サイレントでインストールされる
		監視モード 未適用	① アプリのインストールを促すダイアログが表示されるので［インストール］をタップする ② インストールが実行される
In-Houseアプリ配信 （基本機能）	● 自社開発した（ストアに掲載されていない）アプリを配信する。 ● アップデートは管理者がエンドポイントマネージャーから行う。	監視モード 適用	サイレントでインストールされる
		監視モード 未適用	① アプリのインストールを促すダイアログが表示されるので［インストール］をタップする ② インストールが実行される

© MOTEX Inc.

chapter

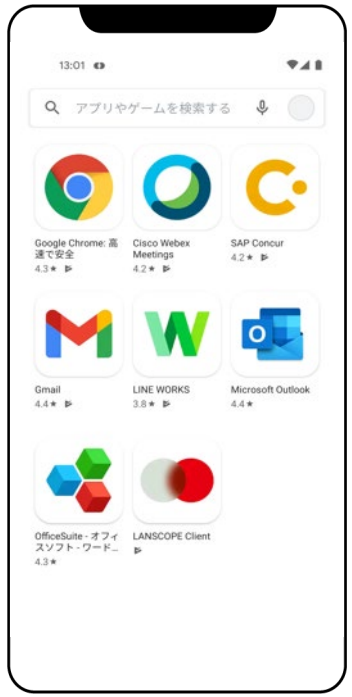
03. 効率的なアプリ管理の方法 Android編

© MOTEX Inc.

Android Enterprise（AE）

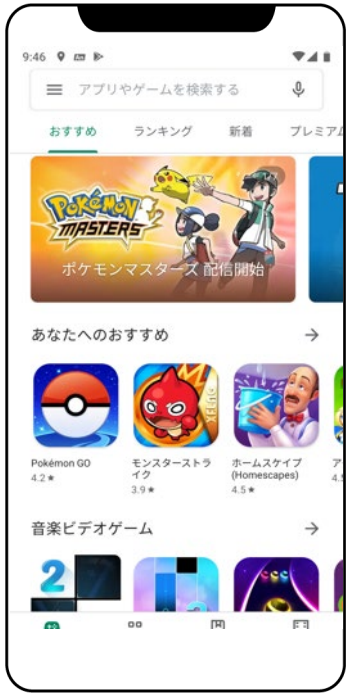
設定した利用を許可するアプリをPlay ストアに表示します。デバイス登録時に、Play ストアを利用するためのGoogle アカウントがランダムに設定されます（このアカウントで、Gmailなどのサービスは利用できず、別途設定が必要です）。許可したアプリは、Play ストアに表示するだけでなく、強制的にインストールすることも可能です。

ホワイトリスト



許可したアプリのみ Play ストアに表示する

ブラックリスト（“見た目”は通常の Play ストア）



不許可のアプリは Play ストアに表示しない

設定できるアプリは、Play ストア掲載のアプリです。自社開発アプリを Play ストアに表示できますが、注意事項があります。詳細はお問い合わせください。
また、Android Enterpriseの仕様上、Google Play ストアで課金が必要な有償アプリの管理はできません。

© MOTEX Inc.

アプリの設定方法

Step1 アプリ管理の方式を選択

ホワイト or ブラックリスト方式
いずれかを設定

Step2 許可/禁止するアプリを検索し追加

Play ストアの UI からアプリを
検索し、Click 操作で選択・追加

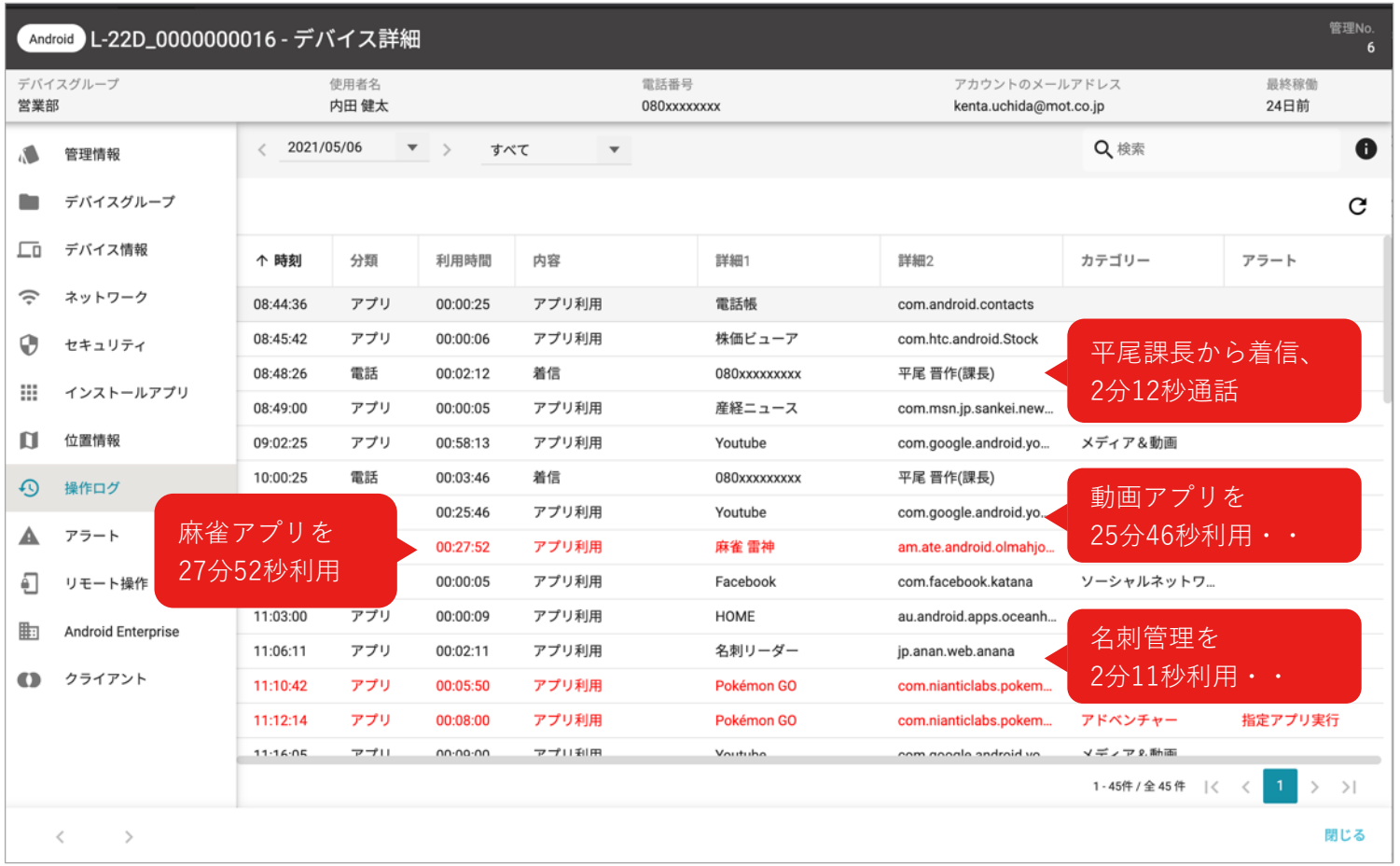
Step3 アプリのインストール方式を設定
※ 許可するアプリの場合

手動インストールは Play ストアに表示するのみ、
強制/プリインストールはインストールまで実行

© MOTEX Inc.

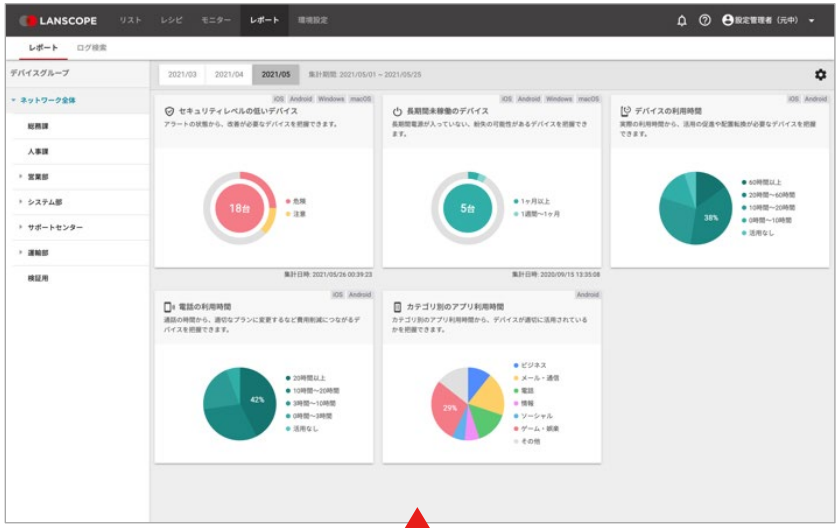
TOPICS：操作ログ取得

Androidの場合、どのデバイスで、いつ、どのくらいの時間、どのアプリを利用したかなどの操作ログが取得できます。利便性の観点から「アプリのインストールは自由にさせたい一方で、過度な業務外利用は困る」という場合に、操作ログで利用状況を見える化できる環境を作ることで、不正利用を抑止できます。
※ iOSの場合、操作ログは取得できません。



取得可能な操作ログ

- ●デバイス利用ログ
- ●電話利用ログ
- ●アプリ利用ログ
- ●新規アプリインストールログ
- ●アプリアンインストールログ
- ●外部メディア認識／取り外しログ
- ●タイムゾーン変更ログ



取得した操作ログからレポートを自動作成

© MOTEX Inc.

Appendix

© MOTEX Inc.

PC・スマホ・タブレットの一元管理をクラウドで実現
「使いやすい」管理コンソールで、充実の「IT資産管理機能」と「MDM機能」を実装

IT review 顧客評価No.1※1

使いやすい管理コンソールと
AIアシスタント※2による活用支援

充実のPC管理

操作ログ・セキュリティ
PC管理に必要な機能を網羅

充実のモバイル管理

AppleとGoogleのプログラムに
対応したiOS・Android管理

※1 IT資産管理、ログ管理、MDM・EMM、統合運用管理の4部門でLeaderを獲得。
※2 LANSCOPE Copilot for エンドポイントマネージャー。2025年3月時点ではベータ版として提供。

© MOTEX Inc.

ABM・AEとの連携設定も含め、製品版へのデータ引き継ぎが可能です！

エンドポイントマネージャー クラウド版の体験版は 60日間利用できます。十分に機能を検証していただき、ご検討ください。

また、Apple Business Manager（ABM）・Android Enterprise（AE）との連携設定を含め、そのまま製品版へのデータ引き継ぎが可能です。

体験版利用中も、弊社サポートセンターにお電話やメール、チャットで問い合わせが可能。

マニュアルやオンラインで学べるトレーニング動画も公開しています。

MOTEX

本資料に関するお問い合わせ

■ 営業本部

大阪本社	06-6308-8980
東京本部	03-3455-1811
名古屋支店	052-253-7346
九州営業所	092-419-2390
E-mail	sales@motex.co.jp

ご導入後の製品利用に関するお問い合わせ

サポートセンター	0120-968-995 （携帯・PHSからは06-6308-8981）
お電話受付時間	9:30～12:00/13:00～17:30（平日、祝祭日除く）
E-mail お問い合わせ	support@motex.co.jp

・記載の会社名および製品名・サービス名は、各社の商標または登録商標です。
・製品の仕様・サービスの内容は予告なく変更させていただく場合があります。
・MOTEX はエムオーテックス株式会社の略称です。

© MOTEX Inc.